元構成員

# 「暑い日」　渡辺 恵美子

オウムを脱会後、何度か手記を書く機会がありました。1度目の手記は、脱会して4か月が過ぎる頃でした。その時は、まだ地下鉄サリン事件も、假谷さん拉致事件も起きていなかった。でも、上九一色村でサリンの副生成物が検出されたと報道され、人々の目がオウムに向き始めていました。この頃の私はまだ地獄の恐怖から脱け出せない状態でした。

夢の中で、片足を切断して血だらけの女の人が、「あなたも尊師に帰依できるでしょう」と言って追いかけてきました。私は泣きながら逃げているところで目が覚めました。

私は5回も脱走し、独房やコンテナに3か月に渡って監禁されました。地獄の恐怖だけでなくオウムに遅れ戻されることも恐怖でした。私がコンテナに閉じ込められた時、真夏で内部は40度まで気温が上がり蒸し風呂のようでした。24時間手錠をされたままで眠ることも横になることも許されず、閉じ込められているという恐怖もあり、だんだん気が狂いそうになってくる。1か月経っても出られない、2か月経っても出られない、いつ出られるかわからない。何度も絶望的になって泣いた。この時、私の心を救ってくれたのは、コンテナの中で知り合った2人の友人でした。彼女たちにたくさん助けてもらった。そして、彼女たちと引き離されたとき、私の心は服界でした。脱走を決意した。私は真っ暗なやぶの中を走った。手や足はいばらの木で傷だらけになった。でも痛みは感じない。なぜなら地獄におちるという恐怖心で一杯だったから。

2度目の手記は脱会して6カ月が過ぎようとしていた頃でした。地下鉄サリン事件、強制捜査、明らかになっていくさまざまな事件・・・辛い日々でした。悔やんでも仕方ないと思っても、後悔・罪悪感で胸が一杯でした。地下鉄サリン事件の日は、テレビを見ていて事件の一報がれた瞬間、オウムだ!と思いショックでした。

オウムの残忍な行為は悲しいけど事実です。そして私はそんな教団の一員だったと思うといてもたってもいられなくなります。でも、罪悪感で一杯の心の中でマインドコントロールはまだ残っていました。庭で草むしりをしようと思ったら、恐くって草がむしれない。オウムにいた頃、草木を傷つけたら成長天の神が怒ると聞いたからです。でも「オウムの教義は矛盾だらけだ。あんな残忍なことをする教祖が救世主であるはずがない。大丈夫、大丈夫」と自分に言い聞かせて、目を閉じて思い切って草をむしった。恐怖はまだ残っている。むしった草を見たら、少しだけほっとした気持ちになりました。

3度目の手記は脱会して1年が過ぎた頃に書きました。世間の話題の中からオウムの話題が少なくなり、証言予定の私を警備していた警察も周りからいなくなり、落ち着いた日々となりました。恐い夢も

たまに見るだけとなりました。罪悪感によってただ落ち込むだけでなく、できることから始めて行こうと思えるようになりました。

ただ、オウムにいた頃の友だちはどうしているかが心配でした。脱会したか？それともまだサマナだろうか？真実を知ってほしいという思いを書いて「カナリヤの詩」に載せました。

そして今回、4度目の手記をこうして書いています。脱会して1年9ヵ月が過ぎました。仕事にも慣れ、精神的にも落ち着きました。今になって気が付くことがたくさんあります。

1年前どうしてもオウムから脱会させたい人がいました。オウムの言っている嘘はこんなにもあるんだよ、といろいろな記事を集め説得しようしました。教義の矛盾を話したり、情に訴えかけたり、いろいろやってみました。マインドコントロールについて本を読んだり、自分で体験しているにもかかわらず、焦りもあって強引に脱会へと導きました。

そんな中で、彼から記憶が消されて覚えてないことが多いことを聞かされました。オウムが記憶を消去しようとニューナルコをしていたことは知っていました。でもまさか彼が、という思いがありました。この時は足元が崩れるような気持でした。私は彼との思い出が支えでした。いろいろなことがあったけど、思い出すのは何故か楽しい思い出が多かった。私が大切に思っていた家庭を失って、残ったのは思い出の中の家庭でした。でもそれも共有できなくなったと知った時、彼が遠くに感じました。彼の悲しみを考える余裕もなく、私の頭の中はパニックしていました。今は、記憶を失った本人が一番辛いとわかります。自分の知らない時間があることは恐怖です。私の想像以上に辛いことだと思います。思い出が消えても、彼は彼だと思うようになりました。

でも、彼の心は今でも苦しんでいます。私では癒せなかった彼の心を、カナリヤの会の同じように記憶を失って苦しんでいる人が癒してくれました。オウムはいろいろな残忍な行為をしました。記憶を消すこともその一つです。先日、精神病院で2ヵ月ほど仕事をする機会がありました。その時、電気ショック療法を見ました。精神病院では治療として使います。薬物療法の効果のない患者さんで、死を強く望んだり、人を殺さなければという危険な思いが強い場合に、その思いを忘れさせてあげるために使ったりするとドクターから聞きました。オウムはこれを悪用しました。電気ショックをかけると一時的に痙攣が起こります。患者さんの姿と彼の姿がだぶりました。こんなに酷いことをする教団にいたのかと、自分が情けなくなりました。

元構成員

# 「暑い日」 渡辺 恵美子

今。

私たちは、オウム犯罪者集団にいました。犠牲者・残された家族がいることも十分分かっています。私たち元信者に対して厳しい言葉があっても受けとめて生きていこうと思います。オウム信者・元信者のマインドコントロールがすべて解けた時、完全にこの世からオウムがつぶれると考えています。

暑い日が続いています。独房やコンテナに閉じこめられてから暑い日が苦手になりました。独房の中は異常に暑かった。両隣の独房の部屋に閉じこめられていた男の人は、夏だというのに電気ストーブをつけて閉じこめられていました。両隣の壁から熱気が溢れてきて独房全体が異常な暑さになっていました。

天井にある小さな換気扇が回っている時だけ、ドアの下のわずかな隙間から風が入ってきました。顔を床にこすりつけ少しでも風を感じることがささやかな楽しみでした。一畳ほどの狭い所にいると息ができないほどの不安に襲われました。24時間手錠をされていたので手の痛みと、手を自由に動かせないストレスも強かった。少しでも眠れると、その時だけは気が狂いそうなほどの不安を忘れられた。この時の夢はいつも親子3人でいる夢でした。目が覚めると、眠る前以上に気持ちが落ち込んでしまい、身の置き場がないような気持に途方に暮れた。目が覚めてからの落ち込みが嫌で眠りたくないという気持ちと、眠れば少しの間、不安から離れられるという気持ちがありました。

脱会したばかりの頃、誰とも会いたくなかった。でもオウムと関係のない友だちが、私が出家中に1人暮らしの私の母を心配して何度も訪ねてきては、母を励ましてくれたそうです。誰にも会いたくないけれど、お礼を言うために連絡をとってみました。すると友だちは私のために泣いてくれました。私の周りにはオウムの一員であった私を優しく待っていてくれた友だちが何人もいることに気が付きました。私は人に恵まれているようです。大切にしていきたいと思います。